

流通経済大学特別奨学生 2 年次活動 「RKU未来力チャレンジ」について

—2014年度・2015年度の活動報告—

立川 和美, 草山 洋平, 小池 求,
咲本 英恵, 濱野ゆうり, 田中悠士郎

1. はじめに

流通経済大学では、2013年4月より特別奨学生の制度がスタートし、2016年度には1年次から4年次までが揃う完成年度を迎える。特別奨学生制度とは、「学業に秀で、向学心に富む、心身共に健康な学生であって、経済的事由により大学教育を受けることが困難な者に就学の機会を与えるため」に設けられた制度である（流通経済大学規程集 特別奨学生に関する規程より）。また特別奨学生は、独自の育成プログラムに参加することが義務付けられている。その指導については、学部が主体となり、教育学習支援課、就職支援課などが共同して行っているが、2年次においては「RKU 未来力チャレンジ」という活動が行われている。この「RKU 未来力チャレンジ」とは、「本学の基本理念のひとつである『実学主義』に基づき、『教室』の外をフィールドとして、学内・学外で累積20時間以上の自主的な活動を行うことにより、実社会を知り・学び・そして未来への力を育むことを目的とした教育プログラム」である（『特別奨学生プログラム「RKU 未来力チャレンジ」2014年度活動報告書』）。

この活動においては、各学部における全体調整を行うコーディネーター教員（学部の特別奨学生指導計画委員）と、各奨学生に向けて直接指導を行うアドバイザー教員が配置され、活動のサポートを行っている。

学生は活動計画に基づいて実際の活動を行い、その報告書を作成する。そして、年度末（2014年度は2015年3月、2015年度は2016年2月に実施）には全学生がパワーポイントを用いて活動内容のプレゼンテーションを行い（この活動報告会は一般公開の形式で行われている）、優秀な活動報告は校友会からの表彰を受けている。

実際に学生が取り組んだ活動は、学生生活支援や社会福祉、スポーツやイベントの運営、ボランティアなどの地域貢献、国際貢献など極めて多岐にわたり、そのいずれもが、それぞれの関心や将来の方向に向けた充実した内容となっている。そしてここでは、自らで課題を発見し、その解決に向けてどのような行動ができるのか、またそうした行動をするために必要な力を育むためには何が必要か、そうした力の育成が学生には求められている。活動終了後には振り返りを行い、学生同士で情報を共有し合うことによって、これからの特別奨学生としての学生生活や、社会人として生活に向けての自分の在り方を考えることができる。米満他（2015）では、キャリアという視点から「企業のグローバル化や情報化の進展、少子高齢化などの社会の急激な変化にともなう、労働市場や就業状況の流動化、情報流通の加速化や価値観の急速な変化も含め、将来の予測が困難な時代が到来しつつある。このような社会状況において大学には、これからの社会を担い、時代を切り開く力のある学生の育成が求められている」と指摘するが、「RKU未来力チャレンジ」を通して、学生はこうした次世代の社会を担い、社会において有為な人物となる力を培っていくものと考えられる。

また、この「RKU未来力チャレンジ」の活動に関して、2014年度特別奨学生指導計画委員会委員長大西哲先生は、大学での導入が推進されている「アクティブ・ラーニング」を見据え、「この『RKU未来力チャレンジ』はまさに『問題解決型の能動的学修』の一つであると言えるかもしれない」と指摘している。

アクティブラーニングは、中央教育審議会答申（2012）において明示されたもので、これにより、従来の大学において主流であった「教員が学生に教える」というスタイルから「学生が能動的に学ぶ」スタイルへの変換が図られつつある。溝上（2014）では、アクティブ・ラーニングとは「一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」と規定されているが、こうした学びが大学教育でも積極的に取り入れられているのである。大学の授業における具体的な内容としては、アイデアを練る段階でのブレインストーミングやKJ法、グループワーク、ディスカッションやプレゼンテーションなどが挙げられるが、さらに学外における様々な調査や活動こそは、「アクティブラーニング」の中核を成す要素と言える。前述のとおり、「RKU未来力チャレンジ」の活動内容は、こうした学生主体の活動なのである。

本稿では、これまでに行われた2014年度、2015年度の「RKU 未来力チャレンジ」の活動の実際についてまとめ、その課題について考察を行う。以下、「1年間の活動のながれ」（草山）、「2015年度 RKU 未来力チャレンジ活動報告会について」（小池、咲本）、「RKU 未来力チャレンジ活動分野の分類」（濱野）、「活動の事例報告」（田中）、「はじめに」および「おわりに」（立川）と分担執筆の形式で進めていく。

2. 1年間の活動のながれ

本章では「RKU未来力チャレンジ」における学生の活動開始から報告終了までの流れを概観する。

2年次に実践される「RKU未来力チャレンジ」は、年度末に行なわれる前年度生の「RKU未来力チャレンジ」活動報告会において、当活動の説明を受けることで準備の開始となる。実践者はまず活動報告会の翌日以降にコーディネーター教員とコンタクトをとり、連絡経路を確保する。次に活動概要や希望を考え、指示された期間までにコーディネーター教員にそれを伝える。コーディネーター教員よりアドバイザー教員のマッチングを受けた後、アドバイザー教員との連絡経路を確保し、具体的な活動内容を決定する。ここまでの工程を2年次の5月頃までに整えることが活動準備となる。

準備が整い次第、実践者は活動を開始する。具体的な活動内容が決まったら、アドバイザー教員と定期的に進捗状況を確認ながら、目標達成に向けて活動をしていく。実践する学生の活動内容は多岐にわたるが、活動を通して、チャレンジする力、つながる力を醸成することを目的とし、単なる活動ではなく、活動の意義を意識しながら行うことが求められている。そのため実践する学生はアドバイザー教員との密接な連絡と指導を繰り返す。

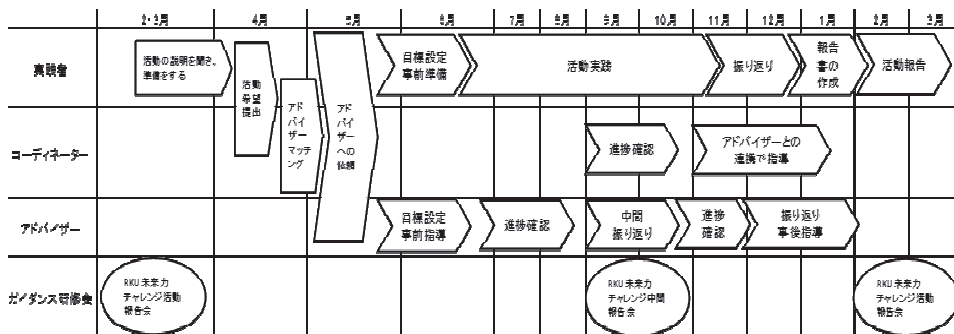
また、活動内容によって外部の受け入れ団体等がある場合には、社会マナーを厳守し、一社会人としての自覚をもって行動し、実践者自身の目的と、その活動本来の目的の両面を十分に理解するよう指導されている。

実践活動は11月下旬を目処として行われるが、活動によっては次年度まで継続して行われることもある。

12月に入ってから、もしくは活動の終了後に、実践者はアドバイザー教員と共に「ふりかえり」を行い、活動報告書の作成をする。この活動報告書をもとにして年度末に活動成果報告会を行う。活動報告書の作成後、アドバイザー教員の確認を受けたら、実践者は活動報告会に向けて資料やスライドの作成等の準備を進める。

3月の「RKU 未来力チャレンジ」活動報告会での発表をもって、活動の終了となる。

RKU未来力チャレンジ 年間活動の流れ



3. 2015年度 RKU 未来力チャレンジ活動報告会について

2月3日（水）の午後に龍ヶ崎キャンパス5号館571教室で「2015年度 RKU 未来力チャレンジ活動報告会」が行われた。当日の主な流れを示せば、1・2年生の学年別ガイダンス→午前の各学部分科会（2年生のみ）→午後の全体会→総括となる。午前・午後の2部構成である。

午前の分科会では、学部ごとに教室に分かれ（スポーツ健康科学部のみ2教室）、未来力チャレンジ活動を行った全員がそれぞれの活動報告を行い（経済7組，社会8組，流通情報1組，法学2組，スポ健20組），活動内容とプレゼンにおいて評価が高かった1組を学部代表として選出した。力作が多く，選出に時間のかかる学部も見受けられた。

ここで選ばれた5組のほかに，分科会以前にすでに各学部のコーディネーター教員が報告書を評価して選んでいた1組を加えて，午後の全体会では合計10本の発表が行われることになった。

午後の全体会では，片山直登特別奨学生指導計画委員長の開会の挨拶，野尻俊明学長の挨拶，社会学部立川和美教授の「2015年度活動ふりかえり」を経て，各学部代表の特奨生の報告が行われた。1年生の特奨生やアドバイザー教員，特別奨学生指導計画委員，就職支援課・教育学習支援課教職員のみならず，2年生の特奨生のゼミ担当教員や学務課職員など多くの参観者があり，フロアーにも熱気があった。

報告時間は3分間，PPTを利用して行われ，報告後の質問タイムではフロアーにいる特奨生から多くの質問が寄せられた。さまざまな地域や人と関わりながら，社会で起こっていること・その問題を受け止め，解決策・改善策に取り組む先輩たちの姿に圧倒された1年生も多かったようである。活動の動機や活動内容の方法を掘り下げような質問が多数あり，報告者も熱意を持って回答していた。

全報告終了後，休憩を挟んで，奨学生およびコーディネーター教員による優秀発表の

投票が行われた。学生の投票はmanabaの機能を利用して行われ、最優秀賞にはスポーツ健康科学部のAさんの「アスリート飯」が、優秀賞には法学部のBさん・Cさん・Dさん・Eさん・Fさんの「難民問題について考える」および社会学部のGさん・Hさん・Iさん・Jさんの「障がいをもつ子供たちとの交流を深める」がそれぞれ選ばれた。彼らには、佐藤克實校友会会長から賞状と副賞が贈られた。今年度は、日常・地域・社会のどこに重点を置くかに違いはあったが、長期にわたる（あるいは何度も繰り返す）活動を通じて、それらの問題を実際に体験し、①その問題に対する理解を深めようとするもの、②その体験を対外的に発信し共有しようとするもの、の2つのアプローチがみられた。票が集まった報告は、選択された課題へのアプローチ方法やその体験が共感され、挙げられた成果が評価されたよう思われる。また、自分の力で課題を解決した充実感に裏打ちされた自信を持って、楽しそうに報告する報告者たちの姿も印象的であった。

3時間弱のプログラムは「あっという間に終わった」という印象で、フロアーからは特奨生を賞賛する声もあがっていた。これも特奨生全員が意欲的に報告会へ参加できた結果であろう。今年度の報告会も大成功のうちに終わったように見受けられた。

4. RKU 未来力チャレンジ活動分野の分類

(1) 活動人数

2014年度は、特別奨学生2年次生56名が対象者であり、このうち54名の学生が指定期間内に活動を修了、2015年度は、54名のうち52名が修了している。2年間で110名のうち、106名（96.3%）の学生が活動を行った。

(2) 活動分野の分類

特別奨学生1期生、2期生の2年間での活動分野を【福祉・保健・環境・地域・RKU・文化・国際】の7分野に分類した。

【表1 活動分野の分類】

福祉	a	高齢者福祉	施設訪問、
		児童・母子福祉	児童、母子福祉施設訪問、
		障害者(児)福祉	障害者(児)施設訪問、障害児保育、自立支援
保健	b	健康づくり	成人病予防啓発、歩け歩け運動、食生活の改善
		保健・医療	難病患者の支援
環境	c	自然環境保全	自然保護、里山保全、リサイクル運動、地域の清掃や河川の浄化
		公害・エネルギー	ゴミの減量化、リサイクル活動、省エネルギー推進
地域	d	地域活性化	都市計画や公共施設建設などでの市民参加
		まちづくり	地域調査、マップづくり
		地域安全 災害復興支援	防犯・防災活動、災害時の救護、被災地災害支援
RKU	e	学生生活支援	勉強会・サークル活動の活性化
		商品開発	流通経済大学オリジナル商品の開発・販売
		キャリア支援	高校生での特別奨学生説明会・特別奨学生制度向上 インターンシップ実践
文化	f	芸術文化	美術館・博物館での活動、地域文化の保全・育成
		スポーツ	スポーツ活動への支援、スポーツ域貢献
		情報化	パソコン講座、IT活用
		教育	学校教育や社会教育・生涯学習活動への協力、子供会等育成活動
国際	j	国際交流	国際文化交流、留学生との交流支援帰国者支援
		国際協力	海外協力、日本にいる外国人の支援、難民支援

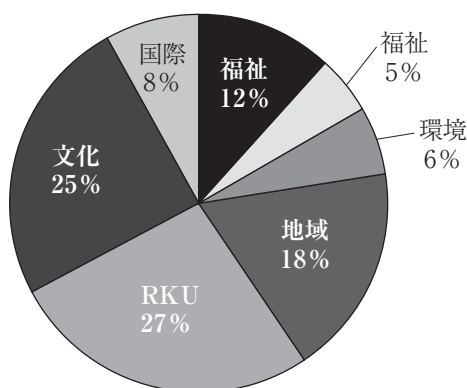
(3) 各分野における人数

実践者がどのような分野に興味、関心を感じ、活動を実施したかは [表2] のとおりである。

【表2 各分野別人数】

	福祉	保健	環境	地域	RKU	文化	国際
2014	7	1	4	8	18	16	3
2015	6	4	2	12	11	11	6
計	13	2	6	20	29	27	9

【グラフ1 活動分野別%】



(4) 活動エリア

活動エリアとして、大学内では、ゼミ、各種説明会を活動拠点とする活動がみられた。図書館利用支援やゼミ選択支援、また、高校生向けへの特別奨学生制度の説明会など自らの大学での生活自体を「学び」へつなげた活動がみられた。

学外では、キャンパスのある龍ヶ崎市地区、新松戸地区、さらに、学生の住んでいる地域や学生が今まで行ってきた活動の拠点となる場所での活動があった。また、1期生は、被災地東北地域での活動や海外では、インドネシアやカンボジアでの活動が行われている。

(5) 活動テーマ

主な活動テーマと活動場所は、以下のとおりである。

福 祉			
社会	a	社会福祉のボランティアを行い社会貢献を目指す	NPO法人 さわやか福祉の会
社会	a	高齢者サービスセンター	龍ヶ崎市総合福祉センター
社会	a	障害児と地域交流イベントのボランティア	龍ヶ崎市社会福祉協議会
社会	a	福祉施設にてボランティア活動を行い現場の実態を探る	小金わかぼ苑
社会	a	社会福祉のボランティアを行い社会貢献を目指す	NPO法人 さわやか福祉の会
国際観光	a	高齢者サービスセンター	龍ヶ崎市総合福祉センター
自治行政	a	障害を理解するってどんなこと	鎌ヶ谷市総合福祉センター
社会	a	障がいをもつ子供たちとの交流を深める・子供たちをつくばね祭に招待し、一緒に回って遊ぶ	リトルミントの家・龍ヶ崎市社会福祉協議会
社会	a	無料塾の子供たちにラグビーを体験してもらう	龍ヶ崎市
スポーツ健康	a	子どもたちに障害者スポーツに興味・関心をもってもらう	Lifesaving club Conditioning team

保 健			
スポーツ健康	b	地域の方々が未来の自分の身体にわくわくしながらセルフコンディショニングを行う環境作り	NPOクラブドラゴンズ
スポーツ健康	b	血管はつらつウォーキング	龍流連携ウォーキング講座2015
スポーツ健康	b	スカイツリーウォーク	流通経済大学陸上部
スポーツ健康	b	アスリート飯	流通経済大学
スポーツ健康	b	ボランティアを行っている方々のボティケア	常総市災害ボランティアセンター
環 境			
流通情報	c	森の清掃ボランティア	丸山サンクチュアリ
自治行政	c	森林美化活動	船橋市木の子の会
自治行政	c	里山を自分たちの手で守っていく	三ツ堀里山自然公園
自治行政	c	ヘルマーク運動	公益財団法人オイスカ
スポーツ健康	c	母校の自然教室の補助員	こてはし台中学校
スポーツ健康	c	常総市災害ボランティア活動	常総市災害ボランティアセンター
地 域			
経済	d	東北ボランティア活動	chance seed
経済	d	ボランティア活動とコミュニケーションの重要性	一般社団法人IDTAセラピスト協会
経営	d	新松戸をよりきれいな街へ	新松戸地区
国際観光	d	浅草調査とレポート冊子の作成	千葉県浅草
流通情報	d	ふるさとへの貢献	ひたちなか海浜鉄道株式会社 他
自治行政	d	東北復興支援	アイミファクト株式会社
自治行政	d	新松戸光のフェスタに関するイルミネーションの作成	流通経済大学
経済	d	松戸市内における地域イベントへの参加	松戸市 新松戸祭り実行委員会
経済	d	被災地でのボランティア活動	南相馬市ボランティア活動センター
経済	d	松戸市の特産品を使った商品開発	流通経済大学 企画広報室
国際観光	d	インタビューによるフィールドワーク—飯能市聖地巡礼について	
国際観光	d	愛媛県今治市のガイドブックを英語で作成	愛媛県今治市
国際観光	d	地元である千葉県原市の現状—観光分野に注目して	千葉県原市
自治行政	d	龍ヶ崎市の活性化	龍ヶ崎市内 (同市民共働課)
スポーツ健康	d	被災地ボランティア	神奈川県地域貢献支援協議会
スポーツ健康	d	被災地の現状を知る	やまと災害ボランティアネットワーク
R K U			
経済	e	大学PRの商品開発	流通経済大学
経済	e	特別奨学生についての説明会	流通経済大学附属柏高校
経済	e	経済研究サークルの立ち上げ	流通経済大学
経営	e	松戸市の特産品を使って大学PRの商品開発	松戸市・流通経済大学
経営	e	経営学科ゼミ説明会	流通経済大学
経営	e	ゼミ活動内容を伝えるページづくり	流通経済大学
経営	e	松戸市の特産品を使って大学PRの商品開発	流通経済大学
社会	e	図書館利用支援	流通経済大学図書館
国際観光	e	海外旅行の魅力を学生に伝える	流通経済大学
国際観光	e	先輩から学ぶ活動 (インタビューとDVD作成)	流通経済大学
国際観光	e	特別奨学生制度向上に向けてのアンケート	流通経済大学
流通情報	e	雑誌編集作業に携わってみて	SUTTER magazine
流通情報	e	音楽部プロモーションビデオ作成	流通経済大学
経済	e	つくばね祭での鯛焼き販売	流通経済大学 つくばね祭
経済	e	経済学の勉強を通じた学習支援活動	経済・金融研究サークル (KKK)
経済	e	経済学の勉強を通じた学習支援活動	経済・金融研究サークル (KKK)
経営	e	オープンキャンパスにおける特別奨学生制度の説明会	流通経済大学 入試センター
経営	e	つくばね祭に出店し地域の人たちと触れ合う	流通経済大学 つくばね祭
社会	e	「プレゼン大会」でのプレゼン・パワーポイントスキルの指導	流通経済大学
国際観光	e	異文化研修 (カナダ) のすすめ	JTBカナダ
流通情報	e	人に聞く 流通情報学部	流通経済大学

文 化			
社会	f	龍ヶ崎市役所の許可を得て行う学生企画実現の取り組み	龍ヶ崎市
国際観光	f	グループ展の計画	バンタンデザイン研究所東京校
流通情報	f	日本の物流事業に貢献した梁瀬仁先生の軌跡を辿って	R K U物流科学研究所
流通情報	f	子供向けワークショップからファシリテーション技術を学ぶ	特定非営利法人Collable SCSK株式会社 株式会社グッドグリーン
流通情報	f	スマートフォンのアプリを開発してマーケットに公開しよう	
自治行政	f	野球による地域貢献“墨田区出身の大学生による野球教室の開催”	墨田区野球連盟
スポーツ健康	f	「throwアップトライ!!!」サポート体育授業サポート	龍ヶ崎市立馴染小学校
スポーツ健康	f	児童の行動変容に対する一考察	龍ヶ崎市立長山小学校
スポーツ健康	f	ミニバスケットボールの指導	MATSUBA ミニバスケットボール
スポーツ健康	f	朝日ヴェントに属する小学生へのサッカー指導	朝日ヴェントサッカースポーツ少年団
スポーツ健康	f	健康づくりとスポーツ指導	ミナトスポーツクラブ天王台
スポーツ健康	f	ウォーキング教室	龍ヶ崎市内
経営	f	輪読会	Cocokara
スポーツ健康	f	ウエイトリフティングの普及活動	茨城県立石岡第一高校ウエイトリフティング
スポーツ健康	f	バトントワーリング体験会	フェアリーズバトンスタジオ
スポーツ健康	f	母校の部活動指導	千葉県立佐原高校
スポーツ健康	f	試合の手伝い	公益財団法人 茨城県サッカー協会
スポーツ健康	f	なでしこリーグの身体的特徴について	つくばFC
スポーツ健康	f	小学校のバスケットボールクラブのボランティア（ミニバスケットボール）	千葉 内野イーグルス（女子）
スポーツ健康	f	切手と空き箱を再利用し、物の大切さを知るサッカーコーチをし、教えるという技術を磨く	長野市ボランティアセンターサッカー
スポーツ健康	f	小学生にサッカーの指導をする	マイティー柏
スポーツ健康	f	子どもへのサッカー指導	柏マイティサッカークラブ
スポーツ健康	f	外部コーチの役割とは	宮城県名取第二中学校ソフトテニス
国 際			
スポーツ健康	j	海外スタディツアー“村の小学校の子どもたちに体育を教える活動”	カンボジア王国
スポーツ健康	j	国際交流活動“ジャグジャカルタ特別州を訪れて”	ジャカルタ
自治行政	j	難民問題について考える（M4R～Meal for Refgjees～の実施）	難民支援協会、新松戸キャンパス学生会
スポーツ健康	j	海外振興国におけるスポーツ支援活動	スポーツフォートゥーエローゴジニアム(SFFC) 国際協力機構(ICA)

5. 活動の事例報告

本章では、これまで特別奨学生が実践した活動事例を紹介する。

【2014年度 Kさん（法学部 自治行政学科）】

Kさんは、「野球による地域社会への貢献」というテーマのもと、自身が幼少期に所属していたや仲間とともに故郷であるS区において野球指導を行った。指導対象は、全国大会出場の実績をもつ5チームの中学生、総勢67名であった。

この活動では、中学時代の恩師の尽力があり開催が実現したことや、当日の指導スタッフとして仲間が協力してくれたことから、人との繋がり、人脈の大切さを強く感じたようである。また、S区野球連盟との交渉や当日運営までの過程の中で、学外の団体

との連絡・相談・書類の提出など、困難なことも多々あった。そのため、責任の重さやリーダーシップを掴むことの難しさ、自身の器量不足などを痛感したとも報告している。しかしながら、最後には「今回の活動は、収穫や課題が多く見つかったものでもあった。この貴重な経験を生かして、自分という人間をもう一回りも二回りも大きくすることができるとし、そうしなければいけないと思うほど様々な刺激の詰まった活動にすることができたと思っている」とまとめている。

【2015年度 Aさん（スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科）】

Aさんは、「アスリート飯」という活動テーマで、自身が発案したアスリート向けの栄養バランスを考慮したメニューを本学の学食から提供するという活動を行った。

まず、活動の準備段階として、運動種目別にアスリートに対する食事の栄養バランス調査や種目特性などから必要な栄養素やその組み合わせなどについて検討を行った。次に、ゼミ合宿で試作品を提供し、ゼミ生の協力を経て栄養バランスはもちろんのこと、学生向けの価格が実現できるよう食材の無駄を減らすなどの改良を重ねた。こうした準備を十分に行ったうえで、学食へ直談判をした。その結果、学食メニューに期間限定という条件付きではあるが「アスリート飯」を学食のメニューとして提供することを実現させた。また、提供開始後も質問票による調査を行い、消費者のニーズに応えた改良を重ねた。

この活動の結果、調理をする際に栄養のバランスを意識すること、食材の無駄を減らすことなど、Aさん自身の食生活の意識変化にも繋がったようである。また、ゼミ合宿を通してリーダーシップを掴むこと、宣伝用のポスター作りや質問票調査の項目の検討やその評価など必要な知識や技術を習得したことも、活動での成果として挙げている。その一方で、提供期間の関係から、質問票調査における消費者のニーズに答えた十分な改善までは至らなかったという課題も残ったようだ。しかし、報告書の最後には、「この経験を生かして将来の自分や家族の食生活に役立てていきたいと考える」と、まとめている。

このように、「未来力チャレンジ」において学生たちは、学内、学外において、それぞれの関心や将来に向けた課題にチャレンジしていき、まさに、「問題解決型の能動学習活動を実践している」といえるのではないだろうか。

6. おわりに

以上、本稿では、2014年度、2015年度の「RKU 未来力チャレンジ」の活動内容についてまとめてきた。

学生の活動内容は、4章に示した通り極めて多岐にわたっており、各自が自らの将来

の目標に向けて活動を行っていることが分かる。また「(出身高校などにおける)高校生向けの特別奨学生制度の説明会」や「障害児との地域交流イベントのボランティア」等、複数の学生が共同で行う活動も見られ、活動内でそれぞれが役割を分担し、ひとつのプロジェクトとしての成果を上げていたものもあった。ここでは、個人における活動に加え、社会において求められるコミュニケーション能力や協調性などの育成も図られたものと見られる。更に5章で紹介した例からも明らかなように、学生の活動は独創性に優れた質の高い内容となっており、3章で示したように年度末の「活動報告会」は、2年生同士での活動内容の情報交換にとどまらず、1年生への特別奨学生としての意識の向上やこれからの学生生活への意欲を高めることにも有効に働いていると考えられる。

また、2章で年間スケジュールを紹介したが、学生がゆとりをもって活動を進められるよう微調整をすすめ、2016年度の活動もすでに始まっている。

このように、「RKU未来力チャレンジ」は学生にとって有意義な活動となっているが、今後の課題としては、2016年度に特別奨学生制度が完成年度を迎えることを踏まえ、4年間の特別奨学生としての学生生活全体を見据えながら、この活動の位置づけを考えていくことが必要であろう。またこれまで以上に、「活動報告会」など、学内外に特別奨学生の活動を積極的に発信していくことも求められる。さらに、2年生の全員が指定期間内にこの活動を修了でき、3年生、4年生の活動へつながっていくような、特別奨学生の選抜から指導への一貫したシステムを構築することも、極めて重要だと考えられる。

(参考文献一覧)

- 中央教育審議会答申(2012)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて——生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ——」文部科学省
- 溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムへの転換』東信堂
- 米満潔・田代雅美・久家淳子・河道威・穂屋下茂(2015)「ICT活用と共同学習手法を融合したキャリア教育の実践的研究」『佐賀大学全学教育機構紀要』3 167-179